

経験者トーク②

加野 亜紀子（コニカミノルタ）



私のプロフィール(1)

- ◆54歳、配偶者あり、子供なし、同居の親なし
- ◆コニカミノルタ(株)勤務、乳がんに関連する医療機器を担当
- ◆2013年5月 検診で乳がん疑い(自覚症状なし)
- ◆2013年6月 乳がん確定診断

左乳房A領域

浸潤性乳管癌(間質増殖を伴い scirrhous への移行を示す)

MRIで10×12mmの腫瘤、限局性

組織学的グレード Grade1

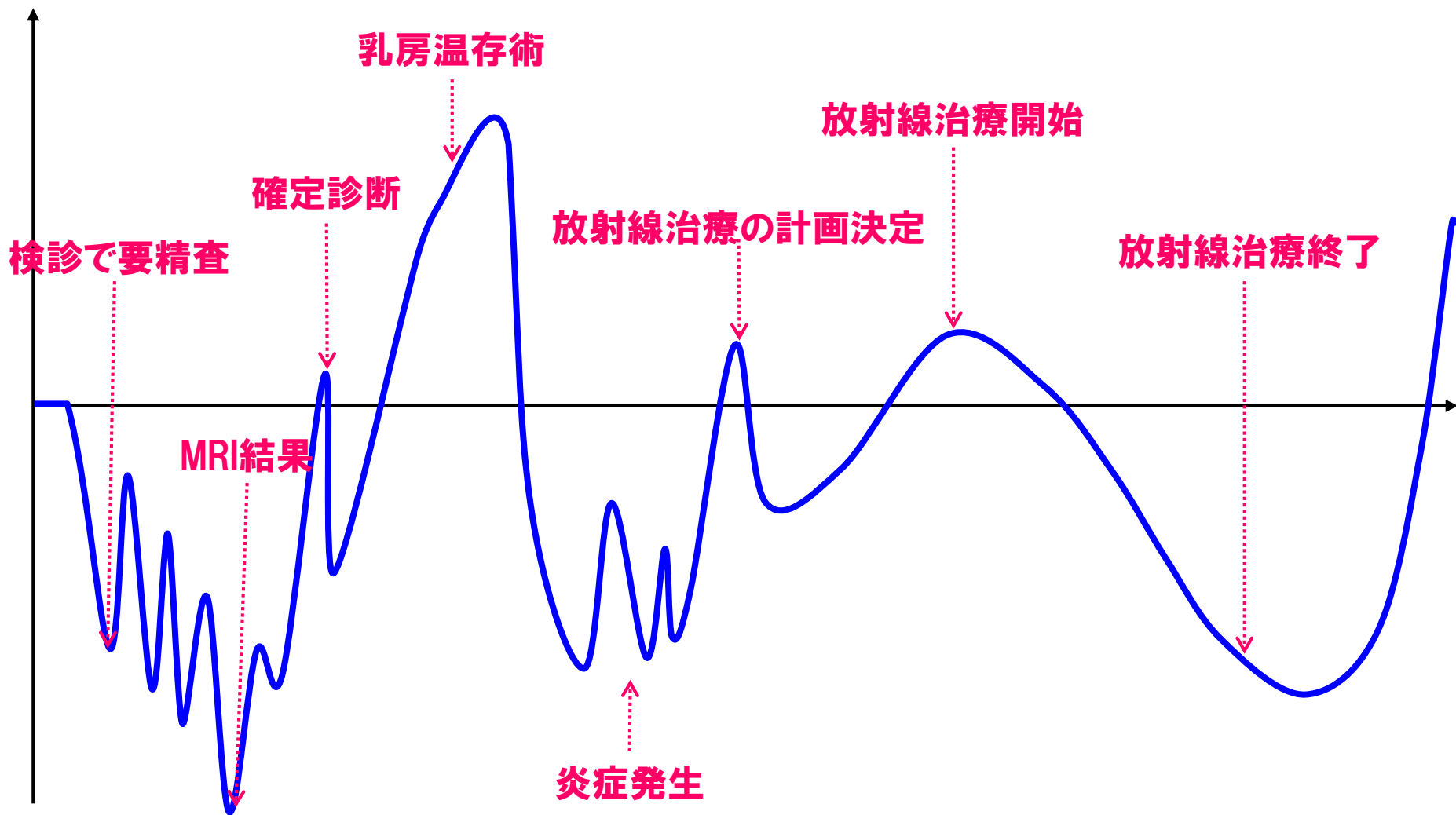
腋窩リンパ節転移なし

ER陽性・PgR陽性・HER2陰性

私のプロフィール (2)

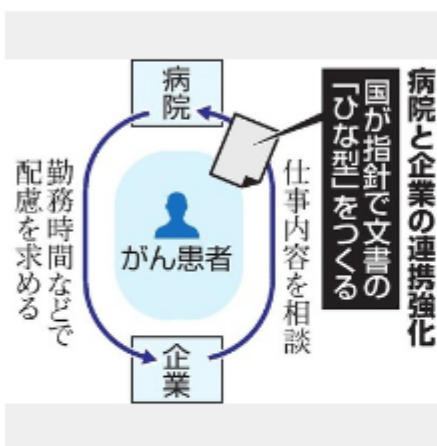
- ◆2013年7月 乳房温存術
- ◆2013年8月 創部に軽い炎症
 抗生剤服用、経過観察
- ◆2013年10～12月 全乳房照射
 25回+ブースト照射5回
- ◆2013年12月～ ホルモン療法(タモキシフェン)
- ◆2014年5月 左肺にすりガラス状陰影
 肺炎と診断される(自覚症状なし)
 精密検査せず経過観察
 2016年1月まで、陰影の消失と発生の繰り返し

乳がん発見から初期治療終了まで



がん退職しないで済む社会に 医師と企業連携など対策へ

朝日新聞デジタル 1月26日(火)5時41分配信



病院と企業の連携強化

厚生労働省は、がん患者らが仕事と治療を両立できるような対策を始める。がんになって仕事を続けられなくなる人は3割超えて、医療の進歩で生存率が改善しても経済基盤を失う人が多い。医師と企業が病状や仕事内容を情報交換する文書の「ひな型」をつくり、短時間勤務などで配慮するよう促す。対策の指針を2月にもまとめ、企業側を指導していく考えだ。

がんは2人に1人がなるとされる「国民病」だ。いったん退院しても、通院や経過観察が長くなりがちで、通常勤務への復帰は簡単ではない。指針ではがん患者らが体調や治療状況に応じて柔軟に働けるよう、短時間勤務や休暇などを活用するよう促す。

良かったこと

- ◆ 精密検査の時点で上司と同僚に相談し、配慮してもらった
- ◆ 確定診断後すぐに産業医に相談し、定期的な面談の機会を設けてもらった
- ◆ 「がんは誰もがかかる病気」「がん治療は退院してからが長丁場」を職場の皆に訴え、理解してもらった

反省したこと

- ◆ もっと甘えればよかった！
(術後すぐ、放射線治療中、しんどかったのに無理してしまった)